

第7章 街づくり 第3節 道路

所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費				成果				評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			環境影響	
			会計	投入コスト		活動実績(H30)		成果指標		総合評価	評価理由	現状の課題	有益なもの	有害なもの	
計画道路整備課	実施計画ランク	事業の種類	H29予算現額	H29決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		B	本路線は市街地を外郭する外環状道路であるため、全線開通により交通渋滞の緩和に大きく寄与する事業であることから重点的に整備を進めている。平成30年度は3工区の区間について用地取得を進め、市道3-974号線から北東へ延長182mについて道路築造工事を行った。また、県が整備を進めている都市計画道路東京狭山線、都市計画道路飯能所沢線と接続する路線であり、2路線は東京都の都市計画道路と繋がる計画となっている。	H30年度に改善した点	有	有		
	最優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	362,925千円	355,604千円	①用地取得率 ②工事着手率 ③	交通渋滞緩和 市道3-5号線、及び主要地方道川越所沢線(美原町3-2944-2前)に観測点を設定。当該都市計画道路開通により交通量1割削減を達成する。	北野下富線(1工区)と松葉道北岩岡線の同時開通により交通渋滞の緩和を図るもので左記箇所に観測点を設定して、年1回・7月の第1水曜日(朝)午前7時30分～8時30分、(夕)午後5時30分～6時30分に測定する。								
	根拠法令	H30予算現額	H30決算額(見込み)	198,127千円				194,910千円							
	道路法、都市計画法	H29正規職員人件費	H29その他職員従事割合	2.00人	非常勤特別職 0.00人	実績	H29年度目標	H29実績						H30目標値が未達成の理由・分析	
	事業の目的及び具体的な内容	16,970千円	臨時職員 0.45人	H30年度目標	H30実績		未開通のため。未整備区間の事業化開始のために、今後も継続的に用地取得と道路建設を進めていくことで、早期の供用開始、全線開通を目指すものである。測定日H30.7.4、川越所沢線 朝)川越方面406台、所沢方面329台、夕)川越方面342台、所沢方面343台、市道3-5号線 朝)狭山方面283台、所沢方面316台、夕)狭山方面248台、所沢方面318台								
	期間	H6年度～	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	4.00人	非常勤特別職 0.00人		H30年度目標						H30実績	H30目標値が未達成の理由・分析
		33,520千円	臨時職員 0.00人	①1工区84%、2工区100% 3工区98%、4工区 77%	②1工区 0%、2工区100% 3工区28%、4工区 0%	R元年度目標		評価者	計画道路整備課長 村上 和雄						
計画道路整備課	実施計画ランク	事業の種類	H29予算現額	H29決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	本路線は総延長1,430mのうち延長700mの区間が供用開始している。一部の区間は電線共同溝による無電柱化及び電線類の地中化を行い、平成26年度の歩道整備により完成している。今後、主要地方道東京所沢線駒形交差点から都市計画道路飯能所沢線までの区間の整備完了により、更なる交通の円滑化を目指す。	H30年度に改善した点	有	有		
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	6,480千円	6,119千円	①整備率 ② ③	安全性・利便性向上のための都市計画道路の築造・整備率(交通の円滑化や安全性、都市防災機能の向上を目的とした無電柱化及び電線類の地中化の実施により交通渋滞の緩和を図る。)	所沢駅西口周辺道路の快適な交通確保のため、歩道のバリアフリー化や景観・防災性の向上を目的とした無電柱化及び電線類の地中化の実施により交通渋滞の緩和を図る。								
	根拠法令	H30予算現額	H30決算額(見込み)	0千円				0千円							
	道路法、都市計画法	H29正規職員人件費	H29その他職員従事割合	0.40人	非常勤特別職 0.00人	実績	H29年度目標	H29実績						H30目標値が未達成の理由・分析	
	事業の目的及び具体的な内容	3,394千円	臨時職員 0.00人	H30年度目標	H30実績		未開通のため。今後、主要地方道東京所沢線駒形交差点から都市計画道路飯能所沢線までの区間の整備完了により、所沢駅周辺道路の更なる交通の円滑化を促進する。また、都市防災機能の向上とともに、周辺住民の安心・安全を確保するために早期の事業化を目指すものである。								
	期間	H13年度～	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	0.35人	非常勤特別職 0.00人		H29年度目標						H29実績	H30目標値が未達成の理由・分析
		2,933千円	臨時職員 0.00人	①49%(H30:0%) ② ③	①49%(H30:0%) ② ③	R元年度目標		評価者	計画道路整備課長 村上 和雄						
計画道路整備課	実施計画ランク	事業の種類	H29予算現額	H29決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	平成29年度から引き続き道路築造工事を実施したことにより、主要地方道川越所沢線北所沢町交差点から市道3-1124号線までの延長210mの区間が、平成30年5月に供用開始した。これにより、新所沢跨道橋通りから市道3-1124号線までの延長890mの区間が開通している。今後は、残る未供用区間について生活道路への通過交通の流入を防ぎ、交通渋滞緩和と周辺住民の安全確保のために重点的に整備を進めて、北野下富線(1工区)との同時開通を目指す。	H30年度に改善した点	有	有		
	最優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	542,205千円	352,996千円	①用地取得率 ②工事着手率 ③	交通渋滞緩和 市道3-5号線、及び主要地方道川越所沢線(美原町3-2944-2前)に観測点を設定。当該都市計画道路開通により交通量1割削減を達成する。	北野下富線(1工区)と松葉道北岩岡線の同時開通により交通渋滞の緩和を図るもので左記箇所に観測点を設定して、年1回・7月の第1水曜日(朝)午前7時30分～8時30分、(夕)午後5時30分～6時30分に測定する。								
	根拠法令	H30予算現額	H30決算額(見込み)	202,263千円				187,875千円							
	道路法、都市計画法	H29正規職員人件費	H29その他職員従事割合	1.85人	非常勤特別職 0.00人	実績	H29年度目標	H29実績						H30目標値が未達成の理由・分析	
	事業の目的及び具体的な内容	15,697千円	臨時職員 0.35人	H30年度目標	H30実績		未開通のため。未供用区間である延長526mの区間は、北野下富線の市道3-5号線から本路線までの延長470mの区間(1工区)と同時開通することで、交通渋滞緩和と周辺住民の安全確保に寄与することから、早期の開通が必要である。測定日H30.7.4、川越所沢線 朝)川越方面406台、所沢方面329台、夕)川越方面342台、所沢方面343台、市道3-5号線 朝)狭山方面283台、所沢方面316台、夕)狭山方面248台、所沢方面318台								
	期間	H16年度～	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	2.55人	非常勤特別職 0.00人		H29年度目標						H29実績	H30目標値が未達成の理由・分析
		21,369千円	臨時職員 0.00人	①100% ②100%(未供用区間526m) ③	①100% ②100%(未供用区間526m) ③	R元年度目標		評価者	計画道路整備課長 村上 和雄						
道路建設課	実施計画ランク	事業の種類	H29予算現額	H29決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	成果指標の目標を達成している。	H30年度に改善した点	有	有		
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	205,124千円	196,747千円	①改良整備工事件数(路線数) ②改良整備延長 ③	単年度改良整備工事実施件数	予算配分に基づき、路線の優先順位を考慮して工事実施件数(目標)を決定する。								
	根拠法令	H30予算現額	H30決算額(見込み)	177,708千円				145,225千円							
	道路法・土地収用法	H29正規職員人件費	H29その他職員従事割合	4.55人	非常勤特別職 0.00人	実績	H29年度目標	H29実績						H30目標値が未達成の理由・分析	
	事業の具体的な内容及び目的	38,607千円	臨時職員 0.00人	H30年度目標	H30実績		目標達成								
	道路の拡幅や交差点の改良により安全性・利便性の確保と渋滞の緩和を図る。また歩行者の通行が多い道路については、歩道の設置により、誰もが安心・安全に利用できる道路整備を行う。	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	3.65人	非常勤特別職 0.00人	H29年度目標		H29実績						H30目標値が未達成の理由・分析	
期間	昭和25年～	30,587千円	臨時職員 0.00人	①3件 ②192m ③	①3件 ②192m ③	R元年度目標		評価者	道路建設課長 加藤 孝雄						

第7章 街づくり 第3節 道路

所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費				成果				評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			環境影響	
			会計	投入コスト		活動実績(H30)		成果指標		総合評価	評価理由	現状の課題	有益なもの	有害なもの	
道路建設課	実施計画ランク	事業の種類	H29予算現額	H29決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		B	成果指標の目標を達成できなかったものの「所沢市生活道路拡幅整備要綱」に基づき市民の生活環境の向上を図っている。	H30年度に改善した点	有	有		
		■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	158,000千円	145,287千円										①後退用地寄付面積	生活道路後退用地取得率
		根拠法令	H30予算現額	H30決算額(見込み)	②後退用地寄付件数										
		所沢市生活道路拡幅整備要綱	156,000千円	139,985千円	③										
		事業の具体的な内容及び目的	H29正規職員人件費	H29その他職員従事割合	実績	H29年度目標	H29実績	H30目標値が未達成の理由・分析							
		市道に接する敷地で建築行為等を行う際、道路中心から2.1mの後退用地の協力を得て、その後退用地の舗装整備を行うものである。また、緊急対策として、市民からの要望等をもとに狭い道路において待避所などの整備を行う。	3.10人	非常勤特別職 0.00人		3,365m	3,528m								
			26,304千円	臨時職員 0.00人	H30年度目標	H30実績									
			H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	①1869.46㎡	4,034m	3,452m	後退整備の申請件数が前年度より減少したため、目標値まで達成しなかった。							
			3.20人	非常勤特別職 0.00人	②106件	R元年度目標									
	期間	平成8年～	26,816千円	臨時職員 0.00人	③	3,810m								評価者	道路建設課長 加藤 孝雄
道路建設課	実施計画ランク	事業の種類	H29予算現額	H29決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		B	COOL JAPAN FOREST構想事業の全体像が流動的で、事業内容が確定できないため、単年度取組目標とする。	H30年度に改善した点	有	有		
		■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	49,957千円	42,893千円										①市道2-572号線東川右岸護岸工事	平成30年度東川右岸護岸工事 令和元年度市道2-572号線改良工事 市道2-561号線・2-996号線交差点改良工事
		最優先	H30予算現額	H30決算額(見込み)	②市道2-561号線外1路線詳細設計										
		根拠法令	147,194千円	46,634千円	③										
		道路法、河川法、土地収用法	H29正規職員人件費	H29その他職員従事割合	実績	H29年度目標	H29実績	H30目標値が未達成の理由・分析							
		事業の具体的な内容及び目的	0.70人	非常勤特別職 0.00人		市道2-572号線	同左								
		「COOL JAPAN FOREST」構想の拠点施設である「ところざわサクラタウン」を中心とした半径約500m圏内の重点推進エリアにおいて交通環境整備を行うことにより、交通の円滑化を進めて行くものである。現在整備を計画している路線は市道2-572号線、市道2-561号線及び市道2-996号線の3路線である。	5,940千円	臨時職員 0.00人	①令和2年1月31日完了予定	H30年度目標	H30実績	市道2-572号線東川護岸工事において、支障となる電柱移設の遅れにより今期の非取水期内に工事を完了することが出来ず、進捗率は70%に留まった。市道2-561、2-996号線の詳細設計・用地測量は完了した。							
			1.15人	非常勤特別職 0.00人	②平成31年3月22日完了	市道2-572	2-572号線:70% 2-561、996号線:完了								
			9,637千円	臨時職員 0.00人	③	R元年度目標	市道2-561								
	期間		平成28年～				市道2-561号線・2-996号線交差点改良工事、市2-572号線道路改良工事								評価者
建設総務課	実施計画ランク	事業の種類	H29予算現額	H29決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	国土調査完了区域において、座標値をもった道路境界確定図の整備を早期に進めるため、確定測量実施面積を指標とする。目標値は、当該年度に行うべき確定測量の対象面積。	H30年度に改善した点	有	有		
		■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	2,920千円	2,484千円										①単年度確定面積	国土調査完了区域における確定測量実施面積
		重要	H30予算現額	H30決算額(見込み)	②確定測量累計面積										
		根拠法令	2,955千円	2,128千円											
		道路法・道路法施行規則・所沢市公共測量作業規程	H29正規職員人件費	H29その他職員従事割合	実績	H29年度目標	H29実績	H30目標値が未達成の理由・分析							
		事業の目的及び具体的な内容	0.65人	非常勤特別職 0.00人		0.10km ²	0.10km ²								
		【目的】座標値をもった復元可能な道路図面を整備することにより、生活道路の後退、拡幅、舗装工事、災害時の復元など、道路整備に反映させる。 【内容】国土調査が完了した区域において、都市基準点を用いた道路の境界点測量を実施し、座標値をもった道水路の確定図面を整備する。	5,515千円	臨時職員 0.00人	①0.12km ²	H30年度目標	H30実績	目標達成済							
			0.55人	非常勤特別職 0.00人	②33.04km ²	0.12km ²	0.12km ²								
			4,609千円	臨時職員 0.00人		R元年度目標									
	期間		昭和53年度～				0.10km ²								評価者
建設総務課	実施計画ランク	事業の種類	H29予算現額	H29決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	境界確認申請に基づいて道水路境界の確定を目指して関係地権者との立会や調整を図り、境界を確定させることで適正な道水路境界確定図の整備が進められるため、境界が確定した件数とする。	H30年度に改善した点	有	有		
		■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	2,962千円	2,700千円										①申請件数	申請により境界が確定した件数
		重要	H30予算現額	H30決算額(見込み)	②境界確定件数										
		根拠法令	3,412千円	2,484千円											
		道路法・道路法施行規則・所沢市道水路境界確認事務取扱要綱	H29正規職員人件費	H29その他職員従事割合	実績	H29年度目標	H29実績	H30目標値が未達成の理由・分析							
		事業の目的及び具体的な内容	2.20人	非常勤特別職 0.40人		160件	185件								
		【目的】道水路境界を確定又は修正し、確定図を整備することにより、適正な道水路の維持管理を図るとともに、民有地の土地利用の促進を図る。 【内容】関係地権者からの境界確認申請による調査・立会い、道路境界の確認・同意、道路境界標の設置、確定図の受理。	18,667千円	臨時職員 0.40人	①161件	H30年度目標	H30実績	目標達成済 (目標値は想定される申請数である。境界確認は申請に基づき実施するもので、申請の減少により目標値と相違したが、申請に対する確認事務が確実に実施されているため目標達成済とした。)							
			2.20人	非常勤特別職 0.40人	②155件	180件	155件								
			18,436千円	臨時職員 0.40人		R元年度目標									
	期間		昭和35年度～				160件								評価者

第7章 街づくり 第3節 道路

所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費				成果				評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			環境影響				
			会計	投入コスト		活動実績 (H30)		成果指標		総合評価	評価理由	現状の課題	有益なもの	有害なもの				
道路建設課	実施計画ランク	事業の種類	一般	H29予算現額	H29決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	成果指標の目標を達成している。	H30年度に改善した点	有	有				
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加		16,348千円	14,299千円										①市道舗装整備実施件数 ②私道舗装整備実施件数 ③	舗装整備工事実施件数	予算配分に基づき、市民からの要望の申請順に舗装路線数(目標工事件数)を決定する。	
	根拠法令	道路法、所沢市私道舗装要綱		H30予算現額	H30決算額(見込み)													14,800千円
	道路舗装事業	事業の具体的な内容及び目的		H29正規職員人件費	H29その他職員従事割合										実績	H29年度目標	H29実績	H30目標値が未達成の理由・分析
	市民からの未舗装道路の舗装要望に基づき、ほこりや騒音、水溜り等を防止し、生活道路としての機能的な整備と良好な住環境の改善を図るため市道及び私道の舗装整備を行うものである。	0.85人		非常勤特別職 0.00人	市道3件・私道3件											市道3件・私道1件		
	期間	昭和25年～		H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合										①1件 ②2件 ③	H30年度目標	H30実績	目標達成
		0.30人	非常勤特別職 0.00人	市道1件・私道2件	市道1件・私道2件													
		2,514千円	臨時職員 0.00人	私道2件														
道路維持課	実施計画ランク	事業の種類	一般	H29予算現額	H29決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	歩行者と自転車を分離することで安全性を確保した。	H30年度に改善した点	有	有				
	最優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加		0千円	0千円										①自転車レーン設置工事	自転車レーン整備の実施延長(m)	歩行者、自転車の通行の安全性を確保するため、道路状況に応じた自転車レーンを整備することが目的になっているため、その整備延長をもって指標とする。	
	根拠法令	道路法、道路構造令、道路交通法、所沢市道路の構造の技術的基準等を定める条例、所沢市移動円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める条例		H30予算現額	H30決算額(見込み)													14,202千円
	自転車レーン整備事業	事業の具体的な内容及び目的		H29正規職員人件費	H29その他職員従事割合										実績	H29年度目標	H29実績	H30目標値が未達成の理由・分析
	歩道内における歩行者と自転車の接触事故の軽減を目的として歩行者と自転車の分離により、安全性を確保するとともに地域のニーズに応じた自転車通行レーンを整備する。	0.00人		非常勤特別職	-											-		
	期間	H30～		H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合										①1,815.7m	1,032m	1,815.7m	目標達成済
		0.65人	非常勤特別職		R元年度目標													
		5,447千円	臨時職員		1,535m													
道路維持課	実施計画ランク	事業の種類	一般	H29予算現額	H29決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		C	市民要望を優先して巨木化したケヤキなどの剪定等を実施しているため、管理状態にバラツキがある。また、樹木診断を実施し、倒木の可能性がある木については伐採等を行い、事故防止に努める。	H30年度に改善した点	有	有				
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加		101,000千円	100,999千円										①高・中・低木剪定数 ②除草 ③樹木診断	街路樹剪定・除草実施延長(km)	道路の景観や道路交通の安全確保を目的とするため街路樹の剪定や除草実施延長を指標とする。	
	根拠法令	道路法、道路構造令、所沢市道路の構造の技術的基準等を定める条例、所沢市移動円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める条例		H30予算現額	H30決算額(見込み)													106,900千円
	街路樹管理事業	事業の具体的な内容及び目的		H29正規職員人件費	H29その他職員従事割合										実績	H29年度目標	H29実績	H30目標値が未達成の理由・分析
	幹線道路等の樹木剪定や植樹帯の除草を定期的に行い、街路樹の目的や機能を十分発揮させることにより、道路環境の整備はもとより良好な都市景観の形成と快適な生活空間を創出する。	3.00人		非常勤特別職	57											34		
	期間	S49～		H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合										①3,151本 ②53,500.1㎡ ③100本	57	34	厳しい財政状況ではあるが、要望の多い路線を優先して実施しているため。
		3.75人	非常勤特別職		R元年度目標													
		31,425千円	臨時職員		58													
道路維持課	実施計画ランク	事業の種類	一般	H29予算現額	H29決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	市民からの通報や道路パトロールにより、道路の危険状況を把握し、迅速に修繕を行うことにより事故防止に努める。	H30年度に改善した点	有	有				
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加		620,520千円	620,140千円										①要望・通報件数 ②道路補修改修工事 ③道路清掃	要望・通報に対する処理割合	老朽化した道路を修繕することが目的のため、要望・通報件数に対して処理した件数の割合を指標とする。	
	根拠法令	道路法、道路構造令、所沢市道路の構造の技術的基準等を定める条例、所沢市移動円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める条例		H30予算現額	H30決算額(見込み)													621,428千円
	道路施設維持管理事業	事業の具体的な内容及び目的		H29正規職員人件費	H29その他職員従事割合										実績	H29年度目標	H29実績	H30目標値が未達成の理由・分析
	老朽化が進行した道路や、機能が低下した道路施設を計画的に修繕し、道路利用者の安全を確保するとともに、沿道の生活環境の改善を目指す。	13.00人		非常勤特別職	100%											95.45%		
	期間	S25～		H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合										①3,293件 ②10路線 1,572.4m ③路面 10路線(23,900m) 92箇所 U字溝 210m	100%	97.90%	多様化・複雑化している要望が多くなり、解決にいたるまで多くの時間を要する案件や財政状況により年度内に完了できていない案件があるため。
		11.05人	非常勤特別職		R元年度目標													
		92,599千円	臨時職員		100%													

第7章 街づくり 第3節 道路

所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費		成果			評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			環境影響						
			会計	投入コスト	活動実績(H30)	成果指標		総合評価	評価理由	現状の課題	有益なもの	有害なもの					
道路維持課	実施計画ランク	事業の種類別	一般	H29予算現額	H29決算額	項目名 ①橋りょう修繕 ②橋りょう定期点検・診断 ③管理者協議(河川・鉄道)	指標名 修繕した橋りょう数	目標設定の考え方・根拠		A	これまでの定期点検の診断結果をもとに、優先順位を見定めて、計画的な修繕を行っている。	H30年度に改善した点 H28年度より実施している法定定期点検を引き続き実施し、市管理橋梁(191橋)すべての健全度を診断することができたため、修繕が必要な橋梁を把握することができた。また、河川協議が懸案となっていた松戸橋の洗掘防止工事についても実施した。	有	有			
	優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加		102,900千円	92,940千円			橋りょうの安全確保を目的とするため、点検により補修等が必要な橋りょうの修繕工事数を指標とする。									
	橋りょう長寿命化修繕事業	根拠法令		道路法、道路構造令、所沢市道路の構造の技術的基準等を定める条例、所沢市移動円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める条例	H30予算現額			H30決算額(見込み)	実績						H29年度目標	H29実績	H30目標値が未達成の理由・分析
		事業の具体的な内容及び目的		建設から長い年月が経過した橋りょうの老朽化に対し、定期的な点検を実施し、その結果から補修等を行うとともに耐震性の向上を図ることで更なる安全性を確保する。 所沢市橋りょう長寿命化修繕計画に基づき、修繕を計画的に進めることで橋りょうを延命化し、維持管理費用の縮減を図る。	151,000千円			128,941千円							1	1	
		期間		H25～	H29正規職員人件費			H29その他職員従事割合							H30年度目標	H30実績	
					3.15人			非常勤特別職							3	3	
	26,728千円	臨時職員		R元年度目標				目標達成済									
	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合		3(横断歩道橋・1橋含)													
	2.65人	非常勤特別職															
	22,207千円	臨時職員															